教育講演 1

ロボット PCI の現状と問題点

上野 高史
福岡記念病院 病院長

Summary

冠動脈領域ではカテーテルインターベンション（PCI）は世界中で急性期のみならず慢性期の待機的な症例に応用されている。近年、その対象範囲は複雑な病変形態にもおよび手技時間が長くなることも稀ではなくなってきた。カテーテル治療では放射線透視下に手技が行われるが、その放射線被曝によって術者の白内障や脳腫瘍などの報告がみられている上に、被爆防御のためのプロテクターによる整形外科的な障害まで及ぶようになった。この点を踏まえて、医療従事者の放射線防護が可能な PCI 補助ロボットが開発された。このロボットでは人が行うガイドカテーテルの挿入、ガイドワイヤーによる病変部の通過、バルーンやステントの位置決めなどが精密に行われる。今回の講演では自験例も含めて海外のデータも紹介したい。

略歴

上野　高史（うえの・たかふみ）

1982 年　長崎大学医学部卒業

［職歴］久留米大学医学部付属病院内科で研修。Atlanta Cardiovascular Research Institute、福岡市医師会成人病センター副院長、2012 年より久留米大学病院循環器病センター教授を経て 2020 年 4 月より社会医療法人大成会 福岡記念病院病院長。

［専門領域］冠動脈疾患の診断と治療、カテーテルインターベンション

©2020 一般社団法人日本心臓病学会